

「和・輪・話」のまち につば 新羽地区社協ニュース

2023年度 第2号
発行責任者
新羽地区
社会福祉協議会
会長 米山健二

令和5年度オレンジの輪プロジェクト開催される

地域と共に作り上げた！オレンジの輪プロジェクト
～誰もが安心して暮らせる町 新羽～



9月21日の「世界アルツハイマーデー」に合わせ、新羽地域ケアプラザで認知症の理解を広めるための「オレンジの輪プロジェクト」が、一昨年、昨年に続き今年も企画開催されました。

新羽地区社会福祉協議会はこの活動に賛同し、オレンジ色のマリーゴールドの苗100株を「花の里づくりの会」から寄付していただき、多くの方に見ていただける場所に植えました。

認知症の理解が深まるように、この活動を今後も続けていきたいと思っております。



令和5年度 児童福祉事業

令和5年度の児童福祉事業として、イヤーマフ6個を新羽小学校に贈呈しました。

イヤーマフとは、耳全体を覆うタイプの防音保護具です。イヤーマフは、もともと工事現場や飛行場、射撃、モータースポーツなどの騒音が大きい場所で、それらの仕事に携わる人の耳を守る道具として使用されてきました。

運動会といった行事に参加する際など、苦手な音や大きな音が聞こえてしまう場面に役立ちます。また常にイヤーマフを着用していなくても、いつでも使える安心感があることで過敏さが和らぎ、苦手だった場所でも過ごせるようになる場合があります。

新羽小学校長談

個別支援学級では、イヤーマフという防音用のヘッドセットがもっとあればいいなあという願望があります。騒音が苦手な児童は学習に集中するためにイヤーマフをつけて学習します。

先生の声は聞こえるようにできているのでとても便利です。学校に2つしかなく、必要台数そろえられたらもっと落ち着いて学習できるのではと思っています。



関東大震災から 100 年を迎えて

今年は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。

発生日の9月1日が「防災の日」と定められているように、日本の災害対策の出発点となりました。

関東大震災100年を契機に、地域で、それぞれの立場で、災害に備える機会としたいです。

私たちはいまからどう備えるべきか

個人でできる身近な対策

部屋の家具やテレビを壁に固定し転倒を防止することは、重要なことです。重たい家具の下敷きにならないように、寝る場所、座る場所には家具を置かないように家具の配置を変えることがポイントになります。

地震発生後に火事を起こさないことも、とても重要です。暖房器具（ストーブなど）の転倒などによる火災を発生させないために、暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かないことがポイントになります。

大きな地震発生時に自動的に電気を遮断する感震ブレーカーの設置も重要ポイントになります。地震に伴い、大規模かつ長時間に及び停電が発生して、停電からの復旧後の再通電時に出火する、いわゆる「通電火災」の発生が懸念されています。

住宅用消火器などを設置し、使用方法について確認することも重要です。

災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。いつ起きるかわからない災害に対応するために、備蓄品の準備が必要です。家族構成を考えて、必要な品物と必要な量を備蓄しておきます。備蓄する量は、1週間分（最低3日分）です。生きていくために欠かせないのが「水」です。水は大人1人1日3ℓ必要とされます。

備蓄品を用意するとき、何が必要なかチェックリストを用いると漏れなく準備できます。下記を参考にして備蓄品を揃えてください。

備 蓄 品 の 例

分 類	品 名
主食となるもの	アルファ米、乾麺、即席麺・カップ麺、パン、小麦粉、もち、シリアルなど
主菜となるもの	肉・魚・豆などの缶詰、レトルト食品、乾物
副菜となるもの	インスタント味噌汁、即席スープ、梅干し、野菜ジュース、果実ジュース、日持ちする野菜、フルーツの缶詰など
その他の食べ物	ビスケットやチョコレートなどのお菓子、緑茶・紅茶・コーヒーなどの嗜好品、調味料
衛生用品	トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、アルコールスプレー、救急箱、簡易トイレ、口内洗浄液
生活用品	カセットコンロ、カセットボンベ、マッチ・ライター、ろうそく、ラジオ、懐中電灯、電池、新聞紙、軍手、ラップ、ポリ袋、ビニール手袋、使い捨てカイロ、充電器、ガムテープ、給水袋、リュックサック、紙皿、紙コップ、割り箸
避難用品	ホイッスル、ヘルメット